

点検評価表(県出資25%未満の財団法人等)

1 団体の概要

(令和6年4月1日現在)

団体名	公益財団法人するが企画観光局		
所在地	静岡市葵区日出町1番地の2	設立年月日	平成7年9月28日
代表者	理事長 久保田 隆	県所管課	スポーツ文化・観光部観光政策課
設立目的(定款)	静岡県中部・志太榛原地域の文化的、社会的、経済的特性等を活用し、観光関連産業の振興と交流人口拡大による地域経済の活性化を促進するとともに、国際的な相互理解の増進、文化の向上及び豊かな人間性に根差した社会の創造に寄与することを目的とする。		
設立に係る根拠法令等	公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律		
団体ホームページ	https://www.visit-shizuoka.com		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡市	210,000	40.2
民間企業34社	198,500	38.0
静岡県	100,000	19.2
行政(焼津市・藤枝市・島田市)	13,500	2.6
基本財産(資本金)計	522,000	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	11
うち県OB	-	うち県OB	-
うち県派遣	-	うち県派遣	-
非常勤役員	21	非常勤職員	16
役員計	22	職員計	27

2 行政施策との関係

(1) 団体活動に係る行政施策の目的

静岡県観光基本計画に位置づけられている、『しずおかの魅力で幸せと感動を呼ぶ観光サービスの創出』、『将来にわたる経済発展に向けた来訪者の受入体制の強化』、『訪れる人と迎える地域の満足度を高める観光DXの推進』の3つの基本方針を推進し、旅行消費額を増大する事を目的とする。

(2) 上記を代替・補完する団体活動の概要

静岡県中部・志太榛原地域をディステーションとしてブランディングし、観光客来訪促進及びMICE誘致・支援の実施をしている。

3 これまでの改革の取組

<p>令和3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DMO事業:5市2町(静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町)における「観光シンクタンク」と「地域のつなぎ役・まとめ役」機能を果たすため、新たに調査戦略室を設置し、中部地域への「来訪者調査」、観光関連事業所の受入環境や経営方針に関する「実態調査」、コロナ禍の景況感や経営状況を測る「景況調査」を実施し、地域の現況の把握に努めた。 また、ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、SNS等を活用したテーマ性のある地域ブランディング活動の実施や、Learn、Tea、Sea事業のさらなるコンテンツ開発、磨き上げを実施した。 ・MICE事業:国内外の商談会の多くが中止となる中、オンライン開催されたバーチャル商談会に積極的に参加し、継続的な情報交換・情報収集に努めた。また、MICE専用多言語WEBサイトの改善や紙媒体(割引クーポン券・マップ等)のWEB化等、デジタルツールの強化を行った。 ・静岡市観光振興事業:中部横断自動車道の開通を好機と捉え、長野・山梨エリアからの誘客促進のため、観光展への出展及びマスメディアを活用した情報発信等を積極的に行った。また、昨年度から継続して、音声ガイドによる非接触型観光の普及推進を実施した。
<p>令和4年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DMO事業:来訪者調査は、調査方法を「WEB回答への一本化」「調査期間の通年化」へと改善、また、調査スポットの追加による調査体制の強化を行い、四半期ごとにHPで公表した。 DESTINATIONマーケティング事業は、専門人材とともにフォロワーの分析等現状把握を行い、年度の運用方針を整理・策定した。また「旅先候補に挙がる環境づくり」のため、WEBマガジンへの記事掲載や商品企画・開発の磨き上げを行った。 Learn、Tea、Sea事業は「MANAVIVA！」の新規プログラム開発、ティーテラスの新規設置や「勝魚かつ」の合格祈願キャンペーン実施など継続的に事業に取り組んだ。 ・MICE事業:観光庁「コンベンションビューロー支援事業」の支援対象都市に選定され、国際会議誘致のための研修の受講やタグラインの作成を行うとともに、誘致セールス用デジタルパンフレットを作成するなど誘致体制を強化した。 ・静岡市観光振興事業:集客が期待できる長野県・山梨県エリアにおいて、交流都市等で開催される観光展への出展や、新聞等マスメディアを活用した宣伝活動の実施、また大型客船寄港時における観光案内、通訳ボランティアの配置など来訪者の受入体制も整備・強化した。
<p>令和5年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DMO事業:調査分析・戦略策定事業については、既存調査の収集・分析や当地域の来訪者・観光関連事業者を対象とした独自の調査に取り組み、HP等で公表した。また、これらの調査結果をはじめ、観光関連の統計等の主なデータを集約・分析した「するが観光レポート」を作成し、公表した。DESTINATIONマーケティング事業については、地域の課題である認知度向上に向けて、一貫したテーマに基づいた情報提供、SNS運用による関心の喚起やパブリシティの獲得による露出の増加を通じて観光目的地としての観光需要づくりを行った。 Learn、Tea、Sea事業については、令和4年度に引き続き、コンテンツの開発、磨き上げを行い、参画事業者の拡大及び周遊促進を図った。 ・MICE事業:市場動向の分析や競合都市の動向把握を行い、戦略的なMICE誘致に取り組んだ。 ・静岡市観光振興事業:NHK大河ドラマ「どうする家康」を活用した観光需要の創出と、当地を訪れた観光客の満足度を高め、リピーターに繋げるよう、観光事業者を対象としたセミナーを実施するなど、おもてなし体制の強化を行った。

令和6年度
(6月時点)

・DMO事業:調査分析・戦略策定事業については、これまでの「データの収集・集約」から「データの活用」のフェーズへの移行を本格化し、データに基づくマーケティングが各層で推進されるよう、行政や事業者との対話を通じて支援方法をブラッシュアップし、地域に横展開可能な体制・手法の確立を目指す。destinationマーケティング事業については、持続的な地域産業の需要づくり(地域ブランディングを反映したシーズナリティの強い商品開発)と観光による地域経済への貢献(インバウンド誘客や消費拡大も見据えた新たなプロモーション事業の実施)を図り、必要かつ有効な事業を国内及びインバウンドとも連携して組み合わせ、相乗効果を図る。また、するがの地域産業や文化、ブランドを高評価する海外インバウンド市場でのマーケティングの積極化と地域産物、ローカルストーリーを活かした高付加価値旅行商品の流通拡大、地域サステナビリティへの取り組みなどによるツーリズムdestinationマーケティングを実践し、地域ビジネス拡大に貢献する。Learn、Tea、Sea事業については、令和5年度に引き続き、コンテンツの磨き上げを行い、参画事業者の拡大及び周遊促進を図る。

・MICE事業:MICE誘致のトップランナーである「グローバルMICE推進都市」に追随するため、国際会議の継続的な誘致を実現できるよう、MICE市場動向の分析や競合都市の動向把握に努め、戦略的なMICE誘致に取り組む。

・静岡市観光振興事業:出張で訪れたビジネス客や、プロスポーツ観戦に訪されたサポーターなど、県内外からの来訪者に向けて、静岡市の地域資源(歴史・食・文化・自然等)の情報発信を行うことにより、周遊促進につなげ、滞在時間の延長を図り、観光消費額の増大に努める。

4 実施事業

(単位:千円 / R5以前は決算額、R6は予算額)

	事業名	公益目的事業		事業区分	市町補助
	事業費	R3	R4	R5	R6
		276,198	249,956	269,072	281,011
1	事業概要	・DMO事業・ブランドコンセプトの構築、企画立案及び調査分析、圏域内観光事業者等との共同事業展開 ・MICE事業・・・MICEの誘致及び開催支援、インセンティブ旅行など各種MICE誘致事業の実施 ・静岡市観光振興事業・・・観光宣伝、観光客誘致、観光客受入、イベント支援事業			
	実績等	(主な事業実績) ・DMO事業:観光庁など様々な機関から公表されるデータを集約し、中部地域への「来訪者調査」、「イベント来場者調査」、純粋想起率を計る「ブランド力調査」、コロナ禍の景況感や経営状況を測る「景況調査」を実施し、継続的な地域の現況の把握に努め、「するが観光レポート」として公表した。また、当地の課題である認知度向上に向け、一貫したコンセプトに基づいた情報提供、SNS運用による関心の喚起等、観光目的地としてのマーケティング活動を推進した。 ・MICE事業:リアルで開催される国内外の商談会に積極的に参加し、コロナ前に築いていた旅行会社とのネットワークの再構築に努めた。また、海外のマーケティング会社と協働し、現地の旅行会社を招待したデスティネーションセミナーを開催し、本格的な海外マーケティング活動に着手した。 ・静岡市観光振興事業:インバウンド需要に対応するためにWEBサイトに自動翻訳サービスを導入したり、静岡駅や清水駅周辺の多言語版のマップを作成した。また清水港に寄港する客船に対しての観光通訳ボランティアやマルシェの運営を受託し乗船客の対応を行った。			

	事業名	収益事業		事業区分	自主事業
	事業費	R3	R4	R5	R6
		13,959	13,779	15,706	19,771
2	事業概要	・登呂駐車場及び駿府城跡観光バス駐車場の管理・運営 ・静岡駅前地下道ショーケース貸付 ・観光施設等での土産品等販売事業			
	実績等	令和3年度事業活動収入:24,663,607円 令和4年度事業活動収入:25,747,228円 令和5年度事業活動収入:27,165,402円			

	事業名	業務管理・その他		事業区分	市町補助
	事業費	R3	R4	R5	R6
		38,113	33,761	33,923	40,752
3	事業概要	(目的)財団の目的を達成するため、事務所の維持及び職員の管理を行う (実施内容) ・理事会・評議員会の開催 ・静岡・清水事務所の賃借等維持管理 ・職員の雇用及び福利厚生			
	実績等	<役員等の就任状況> 評議員16名、理事19名(内1名常勤理事)、監事3名 普通退職者及び定年退職者計2名の減員による補充採用として、事業運営及び組織の継続的な成長を担う正規職員を、公募により採用した。また、人事評価制度の効果的な運用を目指すため、専門家の指導のもとマニュアル及び年間スケジュールを作成し、試行した。			

	事業名			事業区分	
	事業費	R3	R4	R5	R6
4	事業概要				
	実績等				

5 点検評価(県所管課記載)

点検項目	県所管課意見				
① 県の出資の必要性が、現在の社会経済環境において認められるか	<p>県では、「世界の人々との交流の拡大」を図り、県内旅行消費額の増額や宿泊客数の増加を目標としている。 中部・志太榛原地域への誘客促進やMICE誘致・支援を行う(公財)するが企画観光局の取組は、当該地域の交流人口の増加や経済の活性化に寄与していると考えられ、出資の必要性が認められる。</p>				
② 県からの補助金、委託金等の支出について、必要性、有効性が認められるか	該当なし				
		R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
	県支出額(千円)	-	-	-	-
③ 県からの職員派遣について、必要性、有効性が認められるか	該当なし				
		R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1
	県派遣職員(人)	-	-	-	-

6 経営上の課題・改善に向けた取組の方向性

<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的な財源の確保 ・組織の継続的な成長を担う人材の採用と育成 <p><改善に向けた取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・地方公共団体が実施する助成事業の積極的な活用など、財源確保に取り組む ・既存事業の見直しや業務改善などにより、収益性・生産性の向上を図る ・観光まちづくりに関わる多種多様なステークホルダーの実態把握に努め、事業の連携や支援及び成果の共有等を行うことにより、信頼の獲得、組織の存在意義の向上を図る ・観光分野におけるプロフェッショナル人材の育成のため、計画的な研修等を実施する ・人事評価制度の運用により、個の能力やモチベーションアップ及びチーム力の発揮できる組織形成を目指す
--